

計画目標の設定、具体的な施策事業の検討に向けた幹事会開催報告

1) 第 2 回幹事会開催概要

開催日：令和 2 年 1 月 8 日（水）15：00～17：00

開催場所：糸満市役所 3-C 会議室

参加者：末尾参加名簿参照

2) 協議のポイント

報告事項（1）企業等ヒアリング調査結果

- 工業団地のアンケートについては、糸満市として、工業団地の企業の駐車場が不足しているのではないかと課題に対して調査を実施した結果、企業側は現状として駐車場に困っていないという結果が得られた
- しかし、工業団地地区内の路上駐車が多さをみると、駐車場は足りているとは言い難い現状
- 市内事業者ヒアリング結果として、空港直行バスに関しては、観光関連の企業からは運行の期待や協賛金の意思が確認された

審議事項（2）網形成計画（素案）に位置付ける具体的な事業及び評価指標について

（市内公共交通網の再編について）

- いとちゃん mini はお断り件数が増えてきており、利用率は上がっているが今の仕組みの場合、いとちゃん mini は台数を増やしていくしかこの需要に対応するすべがない。乗車効率を上げる方法としては、路線バスに寄せたような仕組みに変える等、そのような事も含めて再編を検討する必要がある

（新交通ターミナルの整備について）

- 現時点は、計画策定中であり、同時に都市計画の手続きに向けての調整を実施している。また、令和 6 年時点の真栄里区画整理事業は、工事・事業に着手していると思われる。都市計画の手続きは、令和 3 年の計画決定を目標にしている
- それと同時進行で事業が着手されていくと、最短であれば、令和 6 年に新交通ターミナルが出来るのではないかと考えられる
- 公共交通網計画の中に、糸満地区のミニ交通結節点の位置づけが具体的に見えていれば、都市計画課もそれを指標として事業を推進することができるため、位置付けてもらいたい

（路線バスの赤字補填額について）

- 糸満市外を運行している玉泉洞糸満線や新里線があるため、（他市町村の意向も重要となるため）すぐにゼロという数字にはできないと思われる
- 赤字補填のバスに関しては糸満市だけではなく近隣市町村との調整もあるため、慎重に検討していく

その他

- 次回の幹事会では、パブリックコメントの内容をみなさんにご紹介して審議し、地域公共交通会議に挙げることに、島田幹事長からの提案で、勉強会として総合事務局運輸部の企画室の方で、交通会議の委員でもある三宅室長に講話を頂く予定である（2/5 開催予定）

3) 議事録

会議の位置付けと今後の進め方

※事務局（新垣祐滋）より、令和元年度第1回幹事会と糸満市地域公共交通会議令和元年度第2回会議の議事内容について報告された

【島田幹事長】令和元年度第1回幹事会と糸満市地域公共交通会議令和元年度第2回会議の議事内容について、質問や疑問点等はあるか。

【委員一同】異議無し。

※事務局（豊里）より、会議の位置付けと今後の進め方について説明された

【島田幹事長】会議の位置付けと今後の進め方については重要なポイントであるため、全委員の認識を合わせて進めていきたい。なお、本内容について質問や疑問点等はあるか。

【委員一同】意義無し。

報告事項（1）企業等ヒアリング調査結果

【島田幹事長】工業団地アンケートと市内事業者ヒアリング結果の結論はどのようになっているか。

【事務局（豊里）】工業団地のアンケートについては、糸満市として、工業団地の企業の駐車場が不足しているのではないかという課題に対して調査を実施した。その結果、企業側は現状として駐車場に困っていないという結果が得られた。ただし、少数ではあるが、公共交通の整備を望む意見もあった。市内事業者ヒアリング結果として、空港直行バスに関しては、観光関連の企業からは運行の期待や協賛金的心思が確認された。

いとちゃん mini に関しては、地域の移動手段の役割を担っていることから、多数の企業からの協賛の心思が確認された。

【島田幹事長】企業側はそもそも公共交通を意識していないのではないかとと思われるが、如何であるか。

【事務局（豊里）】公共交通を意識していない部分はあると考えられる。ただし、アンケートの設問を変えて、公共交通に求めるものは何かと何うと、公共交通に求めるものは多いため、改めて意識すると必要とする部分が出てくる。

【兼城委員】アンケート結果と異なり、現状、工業団地の企業の駐車場は不足していると思われる。なお、現状のバスルートを変更することで、工業団地の企業の職員が利用するかは不明である。実際に工業団地内を見ると、企業の駐車場が足りてないと思われ、路上駐車が多数という状況であるため、「駐車場に不自由」していないという結果に疑問を感じる。路上駐車の取り締まりが厳しくなると公共交通に転換する人も増えるのではないと思う。なお、アンケートでは路線バスのルート変更について挙げられていたが、ルート変更しても現在の車社会の状況から公共交通に転換するか疑問に思う。

【島田幹事長】駐車場不足の一例として、沖縄大学の学生は2,300人中800人が自家用車通学の登録をしており、大学周辺の8ヶ所に駐車場を借りているが駐車場が足りない状況にある。そのため、空いている駐車場を探すために講義に遅刻する生徒もいるが、その解決策として学生からはバスを利用するのではなく、空き駐車場を把握するアプリ開発という意見が挙げられ、取り組みが進められている。

【上原副幹事長】工業団地アンケートの結果を見ると、従業員 20 人以下の企業の回答が多い。駐車場の不足している企業は従業員の多い企業であると思われ、アンケート結果と現状が合致しているのか気になるところである。

【事務局(大嶺)】今回のアンケートは、対象を従業員数の少ない企業に選定して実施したわけではなく、工業団地に立地する企業全社に送付している。従業員数の多い企業からも回答が集まれば良かったが、結果として従業員数の多い企業からの返信が少なかった。

【島田幹事長】工業団地の企業アンケートを実施した目的は何であるか。

【事務局(新垣行則)】路線バスのルートとして、既存の工業団地の最寄りルートから新規ルートへの変更のニーズがあるのか確認することも目的の一つであった。

【事務局(上間)】類似例として、浦添市西洲の工業団地も国道から離れており、最寄りバス停からも遠い状況にある。そのため、ここでも企業の従業員は自家用車通勤しており、周辺道路の渋滞や路上駐車が問題となっている。それに対して、国道から工業団地向けに路線バスや企業で出資し合う企業送迎バスの導入について沖縄県の交通政策課と取り組もうと話題に挙がったこともあった。

しかし、企業側で駐車場不足を喫緊の課題として捉えていない状況があり、糸満の工業団地についても同様に、まだ大きな問題には発展していないのではないかと考えられる。

【オブザーバー(上江洲)】バスの必要性等は、工業団地の従業員の通勤方向にもよるのではないかと考える。通勤時間帯に渋滞にかからない方向の従業員は、自家用車通勤でも困らないと思うが、那覇方面から通勤している従業員については、渋滞するためバスを必要とするのではないかとと思う。

【事務局(新垣行則)】公社の方に工業団地に入居している企業がどの地域から移転してきたかということについて確認したが、全ては把握されていなかった。例えば、西原町や南風原町等、糸満までのバス路線の無い市町村から移転してきた企業の従業員の多くは、自家用車通勤をされていると考えられる。通勤手段として利用できるバス路線がない方は、自家用車に頼らざるを得ないと言え、現状として、工業団地周辺の阿波根交差点や潮平交差点、兼城交差点は 18 時以降、東向きの渋滞が酷くなる。

【島田幹事長】このテーマはバス網に関する内容であり、バスは直行便を無限に運行できる訳では無いため、自家用車から容易に乗り替えが出来る仕組みが重要となると考える。

【事務局(徳元)】工業団地アンケート結果と実状が合っていないのではないかと思います。従業員の通勤手段も問題もあるが、路上駐車することで駐車場が足りていると考えている企業もある。しかし、大きな魚市場も移転が計画されている等、今後を考えると工業団地には空き地が無い状況であるため、網形成計画で公共交通を利用してもらえる仕組みを作っていく必要があると考える。

【島袋委員】工業団地の企業の始業・終業時間が路線バスの運行時間とマッチしていて、利用できるのかどうか気になるところであるが、工業団地の最寄りの路線バスは何時まで運行しているのか。

【事務局(新垣行則)】89 番糸満線は夜 9 時台まで運行している。

【島田幹事長】個人的には大きな計画として、現在構想している新交通ターミナルに各地から人が集まり、ここから工業団地に向けてピストンバスが運行すると想像されるが如何であるか。

【事務局(新垣行則)】そのとおりである。現在的那覇バスターミナルは各市町村よりバスが入ってくるが、糸満の新交通ターミナルにおいても同様に各地域からバスが来て、ここで乗り換えることで他の市町村や目的に向かうための拠点となる形にしたいと考えている。また、可能な限り利便性の高い幹線系統の直行バスの導入も検討して行きたい。

【事務局(上間)】本土では企業送迎バスが運行している地域もある。なお、先程、従業員の勤務時間帯について話題が挙がったが、このような工業団地においては、通勤時間帯の移動がメインであり、日中の時間の移動ニーズがほとんどなく、また、市民利用も見込めないため、路線定期が根付きにくい地域である。そのような地域では、必要な人達がお金を出し合ってバスを運行する企業送迎バスという形式が適している。

なお、東京の丸の内等、都市部になると地域住民等の利用も見込めるため日中も運行している企業送迎バスがあるが、企業送迎バスは朝夕限定の運行で、費用は企業負担としている。

【島田幹事長】どこからバスをピストン運行するのかを想定しておく必要があるのではないか。

【事務局(上間)】現在の計画においては、真栄里の新交通ターミナルが起点となることが考えられる。

【事務局(新垣行則)】市民アンケート結果でも真栄里の新交通ターミナルに市民駐車場が欲しいという意見が挙げられ、自家用車とバスとの乗り換え場所としての機能も期待できる。

【島田幹事長】新交通ターミナルはいつ完成する予定となっているのか。

【事務局(新垣行則)】早くて令和 5~6 年を予定している。

【事務局(新垣祐滋)】社会福祉協議会の事務局長である島袋委員より、先月実施された社会福祉懇談会について説明をお願いしたい。

【島袋委員】社会福祉懇談会は、福祉活動を推進するための地域の実情把握と課題等への対応策を考える機会として実施している。12 月に実施した懇談会は、地域の暮らしに係る公共交通について、福祉力の向上を公助、共助、自助という取り組みの視点で考える機会とした。

第 1 回幹事会において、これまでの公共交通施策と現在と将来のネットワークの議論で、移動需要型では持続可能性に問題があり将来的にはまちづくりと一体的に移動を集約していく必要があるという意見が挙がったことから、今回は、公共交通が少なく移動手段について課題のある三和・高嶺地区を中心に、まちづくりの視点で懇談会を実施した。

今回の懇談会で挙げられた意見として、公助については、いとちゃん mini の継続、65 歳以上及び障がい者の運賃無料化、バス停の増設の要望があった。その他、大型スーパーの誘致(それに伴う乗合バスの運行)という意見も挙げられた。共助については、市内のタクシー会社との連携やホテルの送迎バス等の共用といった企業との連携、シニアカー又は自転車、三輪車のレンタルという意見が挙げられた。

また、各福祉施設のデイサービスで行われている送迎の空き時間を共有の他、自治会ではお互いで乗合や有償ボランティアを募って協力員という形での移動支援という意見が挙げられた。自助については、バス停へ歩いて行けるだけの体力作りをお互いに呼びかけて実施してはどうかという意見が挙げられた。

【島田幹事長】島袋委員からの報告として、いとちゃん mini の運行に関しては、市民も意識を持っていると感じられた。

【島袋委員】公共のサービスのみでは移動手段を確保することが困難であるため、自治会等、地域で協力していくことが必要であるが、いとちゃん mini について運行継続の要望が挙げられた。

また、市内のタクシー会社や企業で、いとちゃん mini に代わるような移動サービスが出来ないかという意見も挙げられた。

【島田幹事長】結論として、市民がいとちゃん mini の機能に対して期待していることが伺える。

審議事項（１）糸満市地域公共交通網形成計画（素案）に位置付ける具体的な事業及び評価指標について

【島田幹事長】前回までに取り組みの方向性は確認出来ており、現段階ではそれを推進するための具体的な事業を当てはめており、次の審議会には指標として現状や目標を設定して審議するということである。

本幹事会の委員は、ここで挙げられた事業を推進するメンバーとなるため、本議論では各事業について解説して頂きながら、決まっている指標については本日記入するような形式で進めて行きたい。なお、話題は異なるが一点確認として、いとちゃん mini 利用者の乗り残し人数として、毎月約 200 人と言われていたが、全体としては利用者の何割程度であるのか。

【事務局（豊里）】一日の予約に対して一割程度である。

※すべてのひとにやさしい公共交通網の形成の評価指標、市営バスの免許返納者割引・障がい者割引の利用割合について

【事務局（新垣祐滋）】いとちゃん mini 運行事業で免許返納割引や障がい者割引の利用割合を把握している。その利用割合で交通弱者が利用しやすい環境かどうかを測りたいと思っている。

【島田幹事長】ここにはどのような数字が入るのか。

【事務局（新垣祐滋）】現状では 32%。これを目標値として、どのような数値にするかはまだ決定できていない。

※モビリティマネジメントの実施件数について

【上原副幹事長】広報誌に掲載している数値を測ろうということで、実際、今年度は 1 回となっている。

【島田幹事長】目標みたいなものも入れるか。

【上原副幹事長】定期的に年度を通して 1 回程度やる必要があるだろうと思う。

【島田幹事長】具体性をもって示せる事業は、どういう数字を入れるのか。

【上原副幹事長】掲載件数を入れる。

【島田幹事長】目標の数値も件数を記入するのか。

【上原副幹事長】そのとおりである。1 回掲載したのでそれになると思う。

【島田幹事長】目標も 1 回にするのか。令和 5 年を見据えて議論し、頑張って高い目標を設定して頂きたい。

※市内行事での公共交通利用促進告知回数について

【上原副幹事長】これは商工観光課にも聞いているが、基本的には市民生活環境課で「チラシを作成する場合には、公共交通を利用してください」といった案内等をする。実際、今回のふるさと祭りのチラシにも入れているが、少し目立たない感じであったので、今度は目立つように工夫していきたい。なお、今年度の告知回数は1回であったと思う。

【島田幹事長】現状は弱くても良いが、令和5年までの目標は高く設定して頂きたい。

【上原副幹事長】大きな祭りであるハーレーや綱引きでも告知を実施し、祭りの回数と合わせたいと考えている。

※市内公共交通網の再編について

【島田幹事長】これはどういう数字を入れようとしているのか？

【事務局(新垣祐滋)】担当は政策推進課であるが、これは数字というより5年後までに公共交通の見直しをやるかどうかということなので、5年後はやるかやらないかという目標が入ってくると考えている。

【島田幹事長】先程の話でいうと、新交通ターミナルが整備できている状況が目標であると思われるが、そういう大きな目標でも良いのではないか。

【事務局(新垣行則)】一番の課題は令和2年までのいとちゃん mini の試験運行終了後、3年以降どうするか、そこを今、内部で検討しているので概要を次の委員会で方向性を示したいと思っている。

【島田幹事長】いとちゃん mini にも関連しているのか。

【事務局(新垣行則)】いとちゃん mini は現在デマンドでやっているが、路線バスとの棲み分けを意識しながら考える必要がある。

【島田幹事長】これは再編という表現は何をもって、再編とするのか。

【事務局(新垣行則)】例えば、既存の路線バスで南部循環線があるが、バスの路線をどうするか、路線を廃止して、いとちゃん mini で新たな路線を作って走らせるのか等の検討となる。

【事務局(上間)】いとちゃん mini はお断り件数が増えてきており、利用率は上がっているが今の仕組みの場合、いとちゃん mini は台数を増やしていくしかこの需要に対応するすべがない。乗車効率を上げる方法としては、路線バスに寄せたような仕組みに変える等、そのような事も含めて再編を検討する必要がある。

【事務局(新垣行則)】単に増便するのみでは赤字が増えるため、そこは効率良くする必要がある。また、アンケート結果にあるように、お年寄りや予約が取りづらい等の課題もあるため、そこに考慮したものを検討していきたい。

【島田幹事長】再編の目標値をどのような表現とするのか、令和5年までにこういう再編を実現するという表現にする必要があるのでは。

【賀数委員】本件についてはデマンドバスや路線バスの赤字の補填額の抽出等と絡んでくると思うが、どうしても再編はある程度やるという方向でないと少しも変わってこないのではないかと。

【事務局(上間)】事務局(新垣)の方からも話があったが、目標としては「再編を実施」という

目標になる。

【事務局(新垣行則)】現在は検討段階であり、目標は実施となる。

【島田幹事長】再編された姿が令和5年に見えるということになる。

※新交通ターミナルを中心とした利便性の高い公共交通を整備するについて

【島田幹事長】現時点は、計画策定中か。令和6年はどういう状況を目標に持っているか。

【賀数委員】現時点は、計画策定中であり、同時に都市計画の手続きに向けての調整を実施している。

また、令和6年時点の真栄里区画整理事業は、工事・事業に着手していると思われる。都市計画の手続きは、令和3年が計画決定を目標に持っている。それと同時進行で事業が着手されていくと、最短であれば、令和6年に新交通ターミナルが出来るのではないかと考える。

【オブザーバー(上江洲)】区画整理事業に向けた都市計画については、令和3年度を目安に決定し、事業については4年又は早くて同時期になると考えられる。新交通ターミナルについては、ターミナルを都市計画としてどういう事業とするのか議論がまだなされていないので、それについては事業検討なのか事業中なのか、言い難いものがある。区画整理事業は着工であるが、新交通ターミナル事業については着工と言えるのか不明確である。

【事務局(大嶺)】ここは指標で、都市計画手続きの指標になっているので、目標としては都市計画決定でいいのではないかとということで、担当と調整している。その後、新交通ターミナルが様々な要素で遅れる可能性はあるが、指標として都市計画手続きと書いてあるため、決定まででいいのではないかと考えている。

【賀数委員】目標は着手で、現時点では計画で良いと考える。

※中心市街地地区都市整備事業の都市計画手続きについて

【賀数委員】中心市街地地区都市整備事業というのはこの固有名詞で合ってるのか。

【事務局(新垣祐滋)】シンボルロード周辺等の開発事業ということで、令和6年度までに都市計画決定としてはどうかということで調整していこうと考えている。

【賀数委員】これは既成中心市街地の再整備であり、市街地再開発事業という理解でよいのか。

【事務局(新垣祐滋)】市街地再開発事業のことである。

【賀数委員】これも令和3年度に向けて現在作成中であり、来年度を目安に都市計画の手続きを開始しようと考えている。

【島田幹事長】ここはまだ事業名が正式なものはないということになるのか。

【賀数委員】都市計画課の方では「シンボルロード周辺市街地再整備事業」と仮称を付けている。

【事務局(大嶺)】タイトルは担当と調整する。

※空港直行バスの運行について

【事務局(新垣祐滋)】これも数値ではなく、やってるかやってないかというような目標の設定になるかと思う。

【事務局(新垣行則)】現在検討で、令和5年から実施していることを目標としている。

※市内主要拠点をつなぐコミュニティバスの運行について

【事務局(新垣祐滋)】これも目標が数値ではないので、5年後に実施しているかどうかという目標設定になると思う。

【島田幹事長】実施ということによいか。

【事務局(新垣祐滋)】もう少し詰めて検討したい。

【島田幹事長】再編と関連する内容となる。

【事務局(豊里)】「市内主要拠点をつなぐコミュニティバスの運行」ではなく「市内主要拠点をつなぐ支線公共交通の運行」等に名称を変更してはどうか。

【事務局(新垣行則)】支線公共交通であれば5年後、実施できていると考えられる。事業のテーマ名称の変更を検討する。

※市職員のノーマイカーデーの参加者数について

【島田幹事長】市職員のノーマイカーデーの参加者数はどの程度か。

【上原副幹事長】沖縄総合事務局の事業「わったーバス大実験」に参加する職員の数ということで、30年度が19名、今年度はまだ回答が来ていないところもあるが、今、分かる時点では11名である。5年後の目標は職員の何%というように設定することを考えている。

【賀数委員】今年度は、市民生活課の方に呼びかけしてもらったが、ホームページにアップされただけであった。それでは参加者が増えないため、職員であれば特に各課に参加者名簿を提出してもらわなければならない。なお、去年の6月から職員駐車場が無くなったので、特にこの実験はやりやすい環境にあると思うため、本来ならば今回の実験はもっと人数が上がってもいいのではという期待はあった。

【島田幹事長】何人にするかという表現で、あとは目標を考えて頂きたい。

【オブザーバー(上江洲)】市の駐車場が無くなり、私はボーリング場跡地に車を停めているが、そこに停めた人たちもノーマイカーデーに該当するのか。

【島田幹事長】それはマイカー通勤となるのではないか。なお、この幹事会がほぼ市役所のメンバーであるが、この中でバス通勤の方は手を上げてもらってもよいか(挙手なし)

この状況を何%にするかという指標が良いのではないか。

【事務局(上間)】この指標の件について、わったーバス大実験は総合事務局で実施しており、去年で3回目であったが、これが毎年続くかというそれは決まってない。令和2年度実施するかどうかは正直まだ決まってない。なお、今年度のわったーバス大実験は糸満市役所さんだけではなく、全体の参加者数が大きく減ってしまっており、この後続けるかどうかは不明確である。それを指標にしてしまうと、仮に実施されなかった場合どうするかということが問題となる。

【島田幹事長】わったーバス大実験参加者を指標にするのではなくて、市の職員の公共交通で通勤している人数等を指標とする場合、交通費の手当か何かで分からないか。それこそ、市民に啓蒙しようという話であるため、職員に啓蒙して5年後どれくらい公共交通に回せるかという話をここに入れてはどうか。

【事務局(新垣行則)】市職員の公共交通利用率みたいなものであるか。

【島田幹事長】公共交通を利用した通勤をしている方である。

【事務局(大嶺)】不安要素として、駐車場が去年無くなったことでバス手当を受給している職員（バス通勤者）が増えたのではないかと思います、人事の方に確認したが、増えたのは2人程度で今はトータル10名いないとのことであった。

元々、バス手当支給職員が7名であったのが、駐車場が無くなっても9名程度しかいない状況である。

【島田幹事長】私は環境がだいぶ変わると思うため、高い目標は持たなくてもいいが、指標は持った方が良くと思う。

【事務局(新垣行則)】逆に今は自転車で来ている人がだいぶ増えている。

【島田幹事長】それで良いと思う。マイカー通勤から転換した職員数を目標値としても良いのではないかと思います。ぜひ市役所が案を示してもらえようをお願いしたい。

※ブーゲンビレア号登録者数 or 年間利用者数について

【島田幹事長】ブーゲンビレア号の年間利用者数というのは現状で言えばどういうふうになるのか。

【玉城和枝委員】事業者数が減ったということで利用者数も減少しているが、ただ利用する人は多いと思う。指標としては良いと思う。

【島田幹事長】現状の数値がここに入るが、何人となるのか。

【事務局(豊里)】平成30年度が4,056人である。

【島田幹事長】それが5年後にどうなるという数字を入れることになりそうか。なお、協力事業者が減った理由は何であるのか。

【玉城和枝委員】協力事業者のバスがデマンド型に変更となったことなどの理由で減少した。

【事務局(新垣行則)】南部病院が便数を増やして変わらないのか。

【玉城和枝委員】南部病院は場所を移転するので、そのルートもまた変わってくると思う。

【島田幹事長】大きな計画の中で、ブーゲンビレア号を必ずしも増やさないといけないという話ではないはずである。

【事務局(大嶺)】今後南部病院が撤退した場合、勝連病院の利用者が増えるということが考えられ、さらに、現在、勝連病院が病院利用者の送迎バスを八重瀬に走らせているというお話を聞いた。

それを糸満まで延伸できるような調整をすることで、ブーゲンビレア号の利用者も増えてくるのではないかと考えられる。新しい事業者に声をかけて増やしていくという方向性、可能性もあるということであった。

【島田幹事長】可能性を持っているのであれば、そこを指標化してはどうか。

【事務局(新垣行則)】そこは人数じゃなくて、事業者の数を指標とした方がよいのではないか。

【玉城和枝委員】事業者数について調整をお願いすることは可能である。

【島田幹事長】それを目標にするかどうかを検討して、そこに入れて頂きたい。

※デマンドバスの収支率について

【事務局(新垣行則)】現状は16.5%である。

【島田幹事長】当初計画みたいなものがあつたのではないかな。デマンドでは大体どれぐらいあれば良いと言えるのか。

【事務局(上間)】一番どの収支率が良い等ではないが、参考になる数字が実はあって、全国のデマンドに対して知見を持ってる方から言わせると 16.5%というのはかなり良い方ということである。

【事務局(豊里)】他の県内のコミュバスと比較してもいとちゃん mini は優秀と言え、収支率は高い。

【島田幹事長】この数字にしたいという逆説的な目標でも良いのではないかな。理屈が立てば良い。より便利になりながら 200 人のお断りもカバーし、この収支率を保つということであれば、称賛されると思う。それでは、これも検討して頂きたい。

※路線バスの赤字補填額について

【事務局(新垣行則)】現状は 2,300 万円である。

【島田幹事長】赤字補填額が最大の時はいくらだったのか。

【事務局(新垣祐滋)】参考資料 1 の 44P に載ってるが、一番高い時が平成 30 年で 3,500 万円程度である。

【島田幹事長】最初の 2,300 万円はどこから来た数字であるのか。

【事務局(新垣祐滋)】今年度の赤字補填額のまだ数字がまだ正確には出てはないが、2,300 万円になる見込みである。

【島田幹事長】2,300 万円は現状であるが、ここではどうするのか。

【事務局(新垣行則)】令和元年度なら、2,300 万になる。ピークは平成 30 年度の 3,500 万になる。

【島田幹事長】5 年後の目標はゼロとするか。

【事務局(新垣祐滋)】これも上の目標の再編やデマンドバス、コミュニティバス等に組み合わせて、どういう路線をどうするか等、ある程度根拠を持たないと示せないところがあるため、もう少し詰めさせていただきたい。

【島田幹事長】しかしながら、当初何年前かこの議論については、着手する時にこれはゼロにしていこうんだという方向性があつたと思う。

【事務局(新垣行則)】糸満市外を運行している玉泉洞糸満線や新里線があるため、(他市町村の意向も重要となるため)すぐにゼロという数字にはできないと思われる。

赤字補填のバスに関しては糸満市だけではなく近隣市町村との調整もあるため、慎重に検討して行く。

【島田幹事長】具体的な事業や目標については公共交通会議では大いに議論になると思うので、ぜひこの幹事会メンバーで議論し、良い目標を構築していきたい。

※その他について

【山内委員】公的サービスとして、障がい者に対して移動支援を一つの事業で連携するとしているが、実際にサービスを利用できる方はある程度一定の障害の認定を受けた方になってしまうので、その基準に満たない人達をカバーできればと考えている。いとちゃん mini の障がい者の利用

について、お断りが少なくなれば数字が上がる気はしている。

【事務局(徳元)】先程話題に挙げたデマンドバスの収支率と赤字補填の件について、これは交通会議に出せる数字であるのか。これは根拠も出さないといけない。その辺は厳しくなるが大丈夫であるか。市内公共交通の再編、実施という程度で出してはどうか。

【事務局(大嶺)】具体的な数字ではなくて、例えば収支を良くするとかそういう表現に変えるということであるか。

【事務局(徳元)】再編を行い、収支を良くするという表現で良いと考える。

【島田幹事長】幹事会としてはぜひ出してほしいが、議論していきつかないものは、次に宿題で残すしかない。可能な限り 2 週間頑張って詰めて頂きたい。

【事務局(徳元)】例えば、バスの赤字補填となると、バス事業者に当たらなければならない。時間が無いのではないか。

【島田幹事長】頑張って 10%削減する等の目標は許容範囲としてあるかと思う。なお、一つ言えることは、ここは市役所の中での議論であるが、次は公になる。徳元部長が分からないものはむやみに出さない様に注意して頂きたい。

【兼城委員】工業団地アンケートは次の会議で出るのか。

【島田幹事長】出ることになる。

【兼城委員】流れとして、工業団地の企業が困っていて、ルートの変更等の流れとなるアンケートになっていれば良いが、そうとはなっていないことが気にかかる。困っている方はアンケートに回答されて無いのでないかと思ってしまう。

【島田幹事長】幹事会は補足機関であるため、そのことを私から補足しておくようにする。他にないか。最後の所の議論が最も大事な部分であるが、そこで宿題が残ったので、本幹事会のサブ幹事会等を開いて個別に対応して頂きたい。最後に、その他の事項の説明をお願いしたい。

【事務局(徳元)】幹事長、この資料については時間がないので、委員長の承諾をもって地域公共交通会議へ諮るということでよいか。

【島田幹事長】1 点付け加えたいのは、この幹事会資料は事務局が出してくるが、事務局の実質責任者は企画部長となるため、そこは納得してもらって資料を出して頂きたい。少なくとも最低は事務局が整理されたものにして頂きたい。

【賀数委員】参考資料 1 の 61P のネットワーク形成のイメージとあるが、60P には交通結機能やパークアンドライドなどの交通結節点の検討を行うとある。主要な交通の結節点に関する指標は「3 まちづくりと整合性のとれた公共交通の形成と活性化」の(1)の②に該当すると思われるが、現在、都市計画課では、ミニ交通結節点について検討していることから、ミニ交通結節点の位置づけできないかと考えている。なお、60P の引き出しの部分がミニ交通結節点に該当するのか。都市計画課として、都市計画事業の中で、市街地再生の役割に小さな交通結節点というものを考えている。

【事務局(新垣祐滋)】賀数委員の意見については、都市計画課の方と調整させていただいて、参考資料 3 の 7P の下方に先程の具体的な事業をもう少し詳しく書くスペースを設けており、その中に都市計画課より頂いた絵にミニ交通結節点という形で表示したいと考えている。

【賀数委員】公共交通網計画の中に、ミニ交通結節点の位置づけが具体的に見えていれば、我々もそれを指標として事業を推進することができる。

【事務局(新垣祐滋)】21日の交通会議までにそこも入れ込んで出したいと思っている。

【島田幹事長】ミニ交通結節点は何ヶ所あるのか。

【賀数委員】吹き出しを見ると2ヶ所であるが、都市計画課の事業計画においては、具体的には糸満地区1ヶ所という考えである。

【事務局(大嶺)】漁港の方に点線を引いて、ミニ交通結節点の位置を表現しようと考えている。

【島田幹事長】次回の公共交通会議までに、今回宿題となった素案を提示出来るよう頑張ってもらいたい。

その他連絡事項等

【事務局(新垣祐滋)】次回の幹事会では、パブリックコメントの内容をみなさんにご紹介して審議し、地域公共交通会議に挙げることに、島田幹事長からの提案で、勉強会として総合事務局運輸部の企画室の方で、交通会議の委員でもある三宅室長に講話を頂きたいと考えている。そして意見交換を行い、意識を高めて行きたいと考えている。なお、現在実施に向けて調整を進めている。

【島田幹事長】公共交通を考える広い意味での議論ができるよう、勉強会の開催ができればと提案した。各課の若手職員も参加して頂ければと思う。

【事務局(上間)】ちなみに、運輸企画室であるため、三宅さんの立ち位置としては物流も観光の話もできる。そういう視点での移動交通という全般でお話ができると考えられる。

【事務局(徳元)】内閣府で出している鉄軌道の話も三宅さんの方でやられているのか。

【事務局(上間)】それは本府での取り組みであるため、別であると思われる。

【島田幹事長】勉強会では30分程度話をしてもらい、あとの30分程度はパネルディスカッションでできるような形式にして、1時間程度の勉強会にするというのを企画したいと思っているが、承認でよいか。

【委員一同】異議無し。

【島田幹事長】では、事務局にはこの内容で進めて頂く。日程としてはどうなるのか。

【事務局(新垣)】日程は、1月末から2月1週目で調整したいと考えている。今後皆さんに日程調整させていただくのでよろしくお願いします。



写真：会議開催状況

■糸満市地域公共交通会議委員 名簿

		シメイ 氏名	区分	所属	役職	備考
1	幹事長	シマダ カツヤ 島田 勝也	学識経験者	沖縄大学地域研究所	特別研究員	
2	副幹事長	ウエハラ ヒトシ 上原 斉	地方公共団体	糸満市市民健康部市民生活環境課	課長	
3		タマシロ イサオ 玉城 勲	観光関係者	糸満市観光協会	事務局長	
4		シマブクロ ユウブン 島袋 雄文	福祉関係者	糸満市社会福祉協議会	事務局長	
5		ウエハラ カズシ 上原 一志	産業関係者	糸満市商工会	事務局長	欠席
6		タマシロ カズエ 玉城 和枝	地方公共団体	糸満市福祉部介護長寿課	課長	
7		ヤマウチ マサナオ 山内 昌直	地方公共団体	糸満市社会福祉部社会福祉課	課長	
8		カカズ ヤスヒロ 賀数 康広	地方公共団体	糸満市建設部都市計画課	課長	
9		カネシロ ヒロヤス 兼城 浩康	地方公共団体	糸満市経済観光部商工観光課	課長	
10		キンジョウ シゲル 金城 秀	地方公共団体	糸満市教育委員会総務部総務課	課長	

事務局

1	徳元 弘明	糸満市企画開発部 部長
2	新垣 行則	糸満市企画開発部 政策推進課 課長
3	大嶺 哲也	糸満市企画開発部 政策推進課 係長
4	新垣 祐滋	糸満市企画開発部 政策推進課
5	玉城 喜章	沖縄しまたて協会
6	上間 淳也	沖縄しまたて協会
7	豊里 博輝	沖縄しまたて協会
8	仲宗根 安弘	沖縄しまたて協会
	計 8 名	

オブザーバー

1	上江洲 安俊	糸満市建設部 政策参与
	計 1 名	